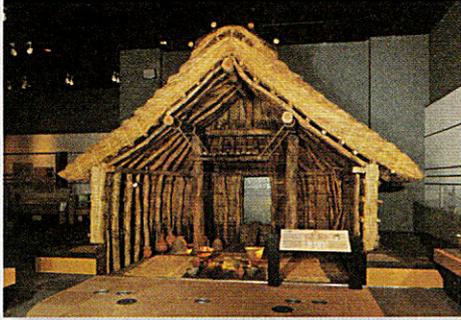


ぼいす

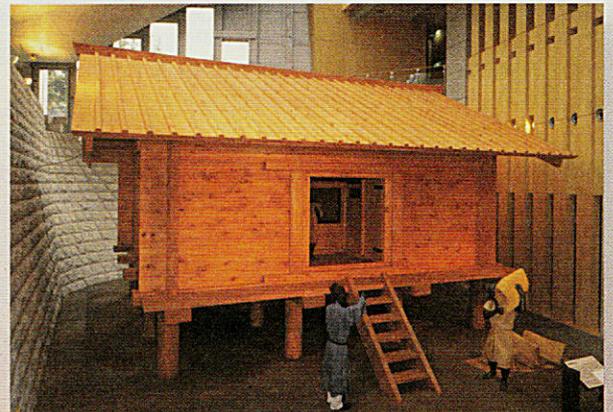
北区飛鳥山博物館だより

2008.3.20

20



おかげさまで
10周年



おかげさまで10周年!

北区飛鳥山博物館10年のあゆみ



平成10年3月27日、江戸より桜の名所として名高い飛鳥山に北区飛鳥山博物館は誕生しました。それから月日は流れて早10年。平成20年3月27日を迎え、当館は満10歳となりました。その間には展示や講座、イベントといった、さまざまな催し物が行われました。その時々タイムリーなもの、定番となって今でも継続されているもの等など。当館が歩んできた10年をちょっと振り返ってみましょう。

《平成10年の主な出来事》



七夕飾りを終えて、ハイチーズ!(常設展示室にて)

- ☆3月27日、北区飛鳥山博物館、開館!
- ☆開館特別展「さく-ら-の美学と実学」開催。24,279人の大賑わい!
- ☆夏期企画展「トラムとメトロ-都電の住む町-」開催。
板橋区立郷土資料館・新宿歴史博物館・豊島区立郷土資料館との合同開催。
- ☆秋期企画展「古地図の愉しみ 山下和正コレクションより」開催。
- ☆ビデオ&トーク開催。
ビデオ映像をご覧いただき、詳しく解説。なんと毎月やっていました。
- ☆講座「鬼平犯科帳に見る王子」に3倍もの応募。さすが鬼平ブーム。
- ☆5回にわたって講座「江戸名所図会を読む」開催。好評だったので後に続編を開く。
- ☆講座「初級考古学講座」開催。本物の土器を手にして大満足。

《平成11年の主な出来事》

- ☆冬期企画展「水とくらしの道具」開催。
学校対応事業の前身。
- ☆ミニ展示「飛鳥山の花見」開催。
- ☆春期企画展「名所の情景 浮世絵版画に描かれた王子・滝野川」開催。
美しい浮世絵版画にうっとり。
- ☆ミニ展示「子どもの世界」開催。
- ☆夏期企画展「ひかうき・ぶんぶん 赤羽飛行機製作所とその時代」開催。
復元された剣号に興味津々
- ☆秋期特別展「貝塚と縄文人のくらし」開催。
ホワイエまで広げて貝塚を紹介。
- ☆ミニ展示「ほかほかあったか暖房具」開催。
展示室中央のふとんに手を差し入れると、湯たんぽの温かさが・・・。
- ☆ミニ展示「写真は語る・・・赤羽」開催。
- ☆常設展示室で毎週日曜の午後、ミュージアムトークを開催。
- ☆季節ごとに年中行事に関する講座を開く。
常設展示室で実際にお飾りも。



美しい浮世絵版画にうっとり。(春期企画展より)

《平成12年の主な出来事》



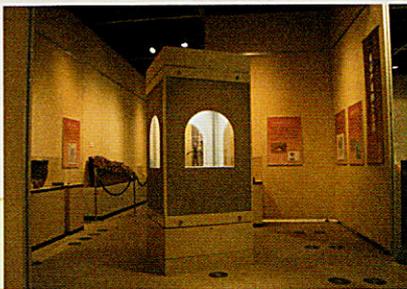
学芸員のお話に興味津々(ミュージアムトークより)

- ☆冬期企画展「カメラとプロジェクター 一中 訓映像機器コレクション」開催。
- ☆ミニ展示「写真は語る・・・王子」開催。
- ☆春期企画展「花・遊・園・・・名所から公園へ」開催。春ならではの企画です。
- ☆夏期企画展「豊島馬場遺跡と方形周溝墓」開催。北区の遺跡シリーズ第1弾。
- ☆秋期企画展「岳人冠松次郎 その生涯とアルビニズム」開催。
知る人ぞ知るアルビニストの展示。
- ☆特別展覧会「人間国宝-重要無形文化財保持者-奥山峰石作品展」
奥山先生の美しい作品の数々。
- ☆毎月外に出る講座「12ヶ月めぐり」開催。
好評も担当者は息が上がる。
- ☆4人の講師を招いて「上級考古学講座」を開く。テーマは「埴輪」。

みなさまからの‘ぼいす’

- 講座に参加された方々に、これまでの当館に対してのご意見、これからの当館に期待することをおうかがいしました。たくさんのご意見ありがとうございました。その一部ですが、ご紹介します。
- 10才のお誕生日おめでとうございます。私達もその間、種々お教えくださって幸せでした。これからもどきどきするような企画をしていただくようお願いいたします。
- いつも楽しい企画展や講座など、何度となく来館して利用させていただいています。この様にいろいろな催しを通年やっている博物館は珍しいのではないのでしょうか? 今後も充実した内容の展示・講座を期待しております。
- 博物館の楽しさは来てみて分かると思います。もっとPRして皆さんが参加できる場所となると良いと思います。
- 10周年の記念事業も多々お考えのことと思いますが、継続的な講座のレジュメなどを再編集して冊子にして刊行してはいかがでしょうか。当館でなくてはできない記念事業といえるのではないのでしょうか。
- 人気の高い講座が多いので休日の昼だけでなく、平日の夜にも同じ内容で講座を実施していただきたい。
- いつもよい企画をしていただきありがとうございます。ただ、常設展示があまり利用されていないような気がします。常設展示を利用した講座を企画してはいかがでしょうか。

《平成19年の主な出来事》



土偶の世界の入口です(春期企画展より)

- ☆学校対応事業「来て・見て・さわって! 昔の道具」開催。
- ☆春期企画展「縄文人の祈り-東谷戸遺跡の土偶-」開催。
土偶って何のために作られたのだろう? 縄文人の気持ちを考えてもらう展示でした。
- ☆スポット展示「ASUKAYAMAセレクション5☆2007」開催。
- ☆「夏休みわくわくミュージアム」開催。
- ☆特別展覧会「人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」開催。
- ☆秋期企画展「明治期における東京北郊の風景」開催。
素朴な風景画に心が和みました。
- ☆常設展示室を部分リニューアル。古墳時代のコーナーに田端不動坂遺跡出土資料が加わりました。

《平成13年の主な出来事》

- ☆学校対応事業「きて・みて・さわって！むかしのくらしを考えよう」開催。冬の恒例事業のスタート！
- ☆スポット展示「一枚の絵はがきから・・・」開催。
- ☆春期企画展「環濠をもつムラ・飛鳥山遺跡」開催。
- ☆「夏休みわくわくミュージアム」開催。夏の恒例事業のスタート。学芸員がダンボールアートに挑戦？
- ☆スポット展示「えっ?! 身近にあるよ文化財」・ミニ展示「写真が語る・・・滝野川」同時開催。
- ☆秋期企画展「田楽展 王子田楽の世界」開催。映像や音を交えた大掛かりな展示。王子田楽のすべてがわかる!
- ☆和歌山県との共催で熊野学シンポジウムを開催し、大好評を博した。
- ☆葛飾区郷土と天文の博物館との合同企画講座「あるけおろじー 古代の道をたどる」を開催。以後、毎年行われる。



華やかな展示の一角(秋期企画展より)

《平成14年の主な出来事》



- 「ほら、ここをこうして!」「・・・」(夏休み土器作り教室より)
- ☆学校対応事業「来て・見て・さわって! 昔の道具」開催。リクエストにお答えして、展示を一般の方々にもご覧になっていただきました。
- ☆スポット展示「ハル・はな・賑わい」開催。
- ☆スポット展示「セレクション5」開催。収蔵品の中から選りすぐりの1点ならぬ5点を展示。
- ☆夏期企画展「金の船・金の星 今に生きる児童文学の世界」開催。ハワイエ特設ステージにて蓄音機コンサートや童謡舞踏を行いました。
- ☆秋期企画展「七社神社前遺跡の「諸磯」集落」開催。華麗な土器のオンパレード!
- ☆学校対応事業「来て・見て・さわって! 昔の道具」開催。
- ☆田端不動坂遺跡出土の「珠文鏡」が新たに常設展示に。
- ☆新聞掲載の考古記事を解説する「新聞からよむ考古学」開催。以後、定番に。

《平成15年の主な出来事》

- ☆学校対応事業「来て・見て・さわって! 昔の道具」開催。
- ☆特別展覧会「人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」開催。
- ☆スポット展示「飛鳥山十二景の世界」開催。
- ☆スポット展示「ASUKAYAMAセレクション5☆2003」開催。
- ☆「夏休みわくわくミュージアム」開催。
- ☆秋期企画展「団地ライフー「桐ヶ丘」「赤羽台」団地の住まいと住まい方」開催。団地の一室の一部を復元。
- ☆「第7回遺跡探訪」で初めてのバスツアー。ひたちなか市まで行きました。



ハワイエでミュージアムコンサートを行いました。



《平成18年の主な出来事》

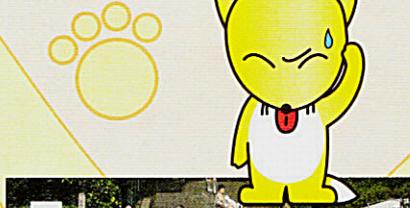


黄色い旗が目印です(「公園史講座」より)

- ☆学校対応事業「来て・見て・さわって! 昔の道具」開催。
- ☆春期企画展「Skyview【風の視線】一空撮でみる郷土の景観」開催。普段見ることの出来ない空からの視線は新鮮。
- ☆スポット展示「ASUKAYAMAセレクション5☆2006」開催。
- ☆「夏休みわくわくミュージアム」開催。
- ☆特別展覧会「人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」開催。
- ☆秋期企画展「遠くと近くの熊野 中世熊野と北区展」開催。北区と紀州熊野との関連が深かったなんて驚き!
- ☆常設展示室を部分リニューアル。西ヶ原貝塚出土の人骨や貝層剥ぎ取り標本などが登場!
- ☆開館準備から多くのご指導をいただきました小林三郎名誉館長がご逝去されました。

《平成17年の主な出来事》

- ☆学校対応事業「来て・見て・さわって! 昔の道具」開催。
- ☆春期企画展「江戸のリッチモンド あこがれの王子・飛鳥山」開催。王子が日本のリッチモンドと呼ばれていたなんて・・・!
- ☆スポット展示「ASUKAYAMAセレクション5☆2005」開催。
- ☆「夏休みわくわくミュージアム」開催。
- ☆特別展覧会「人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」開催。
- ☆秋期企画展「北区の板碑-石が語る歴史-」開催。



本日の終着地にて。おつかれ様でした! (「あるけおろじー」より)

《平成16年の主な出来事》



けむいけどがんぼつて!(かまど体験より)

- ☆学校対応事業「来て・見て・さわって! 昔の道具」開催。
- ☆春期企画展「狐火幻影~王子稻荷と芸能」開催。大好評!開館記念特別展以来の入場者1万人突破。(17,848人)
- ☆スポット展示「ASUKAYAMAセレクション5☆2004」開催。
- ☆「夏休みわくわくミュージアム」開催。
- ☆特別展覧会「人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」開催。
- ☆秋期企画展「赤羽台の横穴墓-古代人の葬送習俗-」開催。実物大の横穴墓(造形保存)を展示。恐るおそる中を覗き込む人も。
- ☆ミュージアムグッズにミュージアムバッジが登場。

名所の誕生

～飛鳥山で読み解く名所プロデュース～

2008年3月20日(木・祝)～5月6日(火・祝)

※前期3月20日～4月13日 後期4月15日～5月6日

会期中の休館日/毎週月曜日

(ただし5/5は開館)、3/21(金)、4/30(水)

開館時間/午前10時～午後5時

会場/特別展示室・ホワイエ・講堂・閲覧コーナー(部分)

観覧料/企画展のみ:大人100円・小中高50円

(団体:大人80円・小中高40円)

常設展・企画展共通:大人300円・小中高100円

(団体:大人240円・小中高80円)

※団体は20名以上。

※常設展・企画展共通の三館共通券

(大人720円・小中高240円)もごさいます。

享保年間、花見の名所・飛鳥山が、江戸の人々の目前に彗星のごとく現れました。

仕掛け人は、八代将軍・徳川吉宗。飛鳥山は江戸の郊外とはいえ、起伏に富んだ地形、江戸中心部から日帰りできるアクセス、周辺に点在する由緒ある寺社など、好条件がそろった地です。吉宗はそこに桜という大きな魅力を加えて、万人に開かれた名所を生み出したのです。過密な生活環境に暮らす江戸の庶民は、この自然に満ちた郊外の遊園を熱狂的に歓迎しました。都市住民の潜在的欲求をつかみ、広く人々の保養と娯楽のために開発された飛鳥山は、実に先駆的な遊園開発の成功事例といえるでしょう。

開館10周年を記念する本展では、作られた名所・飛鳥山を生んだ背景や発展の過程をたどりながら、その歴史と魅力を伝える多彩な資料をご紹介します。

また、飛鳥山の古代史、また博物学史などをご紹介します併設展「エピソード・オブ・飛鳥山」も同時開催します。ぜひご覧ください。



企画展関連イベントのご案内

1. 開館10周年記念 企画展ミュージアム・トーク

3つの博物館の開館日を記念して、紙の博物館・当館・渋沢史料館の順に、各30分間の展示解説をおこないます。

日時:3月27日(木) 午後1時30分～3時30分(当館は午後2時15分～)

会場:各館 企画展会場

講師:担当学芸員

定員:20名

締切:往復ハガキ 3月18日(火)必着

2. 3つの博物館合同 企画展ミュージアム・トーク

3つの博物館が順番に各30分間の展示解説をおこないます。

日時①4月19日(土) 午後1時30分～3時30分(当館は午後1時30分～)

②4月26日(土) 午後1時30分～3時30分(当館は午後3時～)

会場:各館 企画展会場

講師:担当学芸員

定員:20名

締切:往復ハガキ 4月10日(木)必着

3. 3つの博物館合同企画「学芸員と歩く王子・飛鳥山の歴史と産業」

実際に地域を歩きながら、近世から近現代にいたる王子・飛鳥山周辺の発展について、3つの博物館の各学芸員が解説します。

日時:4月24日(木) 午前10時30分～午後1時30分

講師:担当学芸員

定員:35名

締切:往復ハガキ 4月10日(木)必着

4. 講義&見学「名所の変遷をたどる」

時代とともに移り変わる名所のあり方と社会的背景について、講義と現地見学を通じて考えます。2回連続。

日時:[講義]4月23日(水) 午後2時～4時

[見学]4月29日(火・祝) 午前10時～午後2時

会場:[講義]当館 体験学習室 [見学]野外

講師:担当学芸員

定員:30名

締切:往復ハガキ 4月9日(水)必着

5. 開館10周年記念企画展 特別講演会

王子・飛鳥山の発展をみちびいた三代将軍・徳川家光や八代将軍・徳川吉宗にちなみ、徳川時代の歴史・文化や事績についてお話をいただきます。

日時:5月2日(金) 午後2時～4時

会場:北とびあ つつじホール

定員:350名

講師:徳川恒孝氏(財団法人 徳川記念財団理事長)・竹内 誠氏(江戸東京博物館長)

締切:4月18日(金)必着

6. 開館10周年記念 企画展スタンプ・ラリー

紙の博物館・渋沢史料館・当館の各企画展をご覧いただき、スタンプ3つを集めた方に、抽選でミュージアム・グッズをプレゼント!

期間:3月20日(木)～5月6日(火)

当選:合計60名

申込方法:専用シートにスタンプ3つを集め、企画展会場内の申込箱に投函してください。

記憶のかけらを繋げて

江戸時代、「六阿弥陀詣」という行事が江戸北郊で流行したことはご存知だろうか。春と秋の彼岸に阿弥陀仏を安置した6箇所の寺院を詣でる行事である。北区内にはこれら寺院のうち三寺が含まれている。そしてこの六阿弥陀詣には、次のような伝説が残されている。

荒川を挟んだ豊島氏と足立氏の両豪族が婚姻関係を結んだがうまくいかず娘と5人の侍女は、川へ身を投げてしまう。心を痛めた娘の父親は、娘と侍女の菩提を弔うため紀州熊野権現に参拝したところ、一本の霊木を得、その霊木で六体の阿弥陀仏を作らせて娘の菩提寺と侍女の出生地に安置し、追善をした。

中世の世にこの地を支配していた有力武士の伝説である。当時の人々はこのような伝説とともに罪障消滅を願い、或いは行楽として江戸北郊を楽しんだのである。

さて、この六阿弥陀伝説は、行事の大流行した江戸後期、どのような広がりを見せていたであろうか。『埋木の花』に伝説を聞き書きした記述がある。

その内容は、豊嶋左衛門の子息と荒川対岸の足立少輔(又沼田庄司)の娘が結婚し、その際に通った敷石や橋の杭が今も川底に沈んでいる。又、川の兩岸には夫婦神が祀られており、夫婦神が往来するのを稀に里人が目撃することがある。更には、現在川向こうへ嫁ぐ者があれば、伝説の場所は避け、別に渡しを用意して川を渡る。ということが記されている。そして文末には、「是等の説々ミな六阿弥陀縁起を色々」と附会転説して、里人の話とハなれり」とある。

六阿弥陀伝説の断片であるが、荒川やその兩岸に鎮座する神社を媒体に、地域に伝説が根付き、更には悲話であるが故に禁忌習俗として定着していく過程が垣間見れて面白い。

現在足立区には、以下のような伝説が残されている。

昔、舎人の長者の息子と川を隔てた新里の長者の娘が結婚したが、娘は婚家とうまくいかず実家へ戻る途中、川へ身を投げた。依頼長雨のたびに川が氾濫するようになった。ある時、里人が3メートルほどもある髪の毛を見つけ、新里の長者のもとに届けて毛長神社として祀ると、それ以来川の氾濫は治まったという。一方舎人の息子も妻に先立たれた嘆きから自殺してしまった。長者は息子の霊を慰めるため、諏訪神社として祀った。

かつて北区内でも川向こうの地域と婚姻関係を結ぶことは少なくなかった。一地域の豪族同士の物語に過ぎないこの伝説がこれほどまで人々の心を捉えた背景には、このような不幸を慰め、嫁いだ娘の幸せを願った里人の思いが伝説の底流を流れている。

川を媒体にしたこの地域の伝説は、永い永い時間の中で紡がれた、人々の様々な思いがあった。その記憶のかけらが繋がり、江戸北郊六阿弥陀物語として輝くのである。



『武州六阿弥陀巡拜の図』

ぼいす 生涯教育から生涯学習へ

「博物館とは生涯学習機関である」というフレーズはよく聞かれますが、博物館業界では「生涯教育」を「生涯学習」として喧伝している場合がままあるようだ。「生涯教育」と「生涯学習」は別のものである。

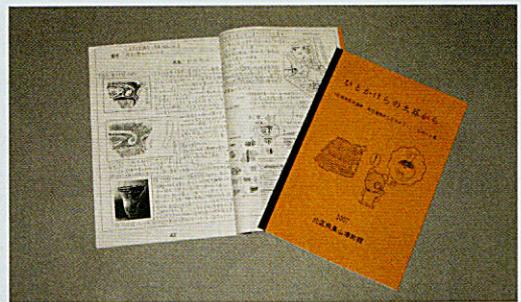
講演会や講座などで講師が大勢に話して聞かせるのは「生涯教育」である。ここでは受講者が聞く内容は講師が一方的に決定することになり、参加者する姿勢は受身的であるといえる。「生涯学習」とはさらに一歩進んだ形態である必要がある。つまり受講者がさらに興味を持ち、自らの意思で能動的に行動して学習する。これが本来の「生涯学習」であろう。

「生涯学習」形式の講座を行っている博物館は多々あるが、当館では多くの講座がまだ「生涯教育」の段階であるのが実情である。そこで昨年12月に試みに「生涯学習」を志向した講座を実施してみた。

講座は4日間で、区内の遺跡から出土した一片の土器片を受講者が自らの手で図化・調査し、最終的にレポートにまとめるといった設定で行ったが、多くの受講者はいつもと違う

シチュエーションにとまどったようだった。その理由として、当館の博物館利用者に「生涯学習」の概念が根付いておらず受講者が自らの学習に対して受身的であることが挙げられるだろう。この一例を見ても、博物館利用者を「生涯学習」の段階に進ませることは容易なことではなく、長期的な学習支援を行っていく必要があると考えられる。

今回の講座は受講者にとって受難だったようだが、その分強く印象に残ったようで、後日、「先生！またああいうのやってくれよ!!」と声をかけられたりもした。大変だったが、苦勞して自ら学習する楽しみを知ってもらえたとすれば、うれしいことだ。(F)



参加者の「生涯学習」が綴られたレポート集



写真で見るあの目、あの時 昭和37年(1962)頃の篠原演芸場

下町の玉三郎、レオナルド熊、三波春夫・・・数多くの役者・ボードピリアン・流曲師・流行歌手たちがこの舞台を踏み、いくつもの劇団がここから世に送り出されました。そこは十条篠原演芸場。浅草木馬館、立川大衆劇場とならんで東京に残る数少ない大衆演劇専門館のひとつです。なかでも篠原演芸場は東京では現存最古で、昭和26年(1951)に開館しました。まだ戦災の余燼が残るその頃、テレビもない時代、娯楽に飢えた人々はひと時の楽しみをここに見つけ、舞台と観客席が渾然一体となった義理と人情の世界にひたって、切々たる名場面の一つひとつに喜怒哀楽の思いを解き放ったのでした。

昔ながらの旅の一座で芝居を打つ、篠原演芸場を写したこの一枚を見ると、白ペンキも鮮やかに演目が書かれ、立て看板には「本日開演」の役者「喜多川栄治」の名前が記されています。さらにその横には「深川ひるきより」の幟が、鮮やかに染め抜かれ翩翩と風をはらみ、舞台写真が散りばめられた額の下には「市川菊太郎」のポスターが貼られています。ちょうど夜の部が始まったところでしょうか、白熱電球

の輝きも眩しい暖簾の奥から、熱い興奮が伝わってきます。また開演前には長蛇の列を作る劇場の入口あたりには、坊ちゃん刈りの子どもたちがバイクにまたがって遊び、あどけない一瞬の表情を見せています。

そして現代、十条中央商店街は平成10年(1998)、演芸場通り商店街にその名を改め、懐かしい昭和の雰囲気を残しつつ街ぐるみで大衆演劇の灯火を今に伝えています。

(石倉)



倉田正義氏撮影「篠原演芸場」

もっと知りたい! ちょっと気になるこの1品

ナウマンゾウ田端標本(複製)

常設展示室「大地のおいたち」より

都内でも極めて少ないナウマンゾウの化石です。和名は東大で地質学を初めて講じたエドモンド・ナウマン教授に因んでいます。複製でも実物と見分けがつかない程そっくりに拵こしらえていますので、リアリティは十分です。田端駅ができて間もない明治31年に駅付近の崖地から切歯1点と臼歯2点がほぼ同じ地点で続けざまに発見されました。ナウマンゾウは、マンモスと同じく既に絶滅した長鼻類ですが、寒冷期に生息していたマンモスと異なりそれより前の最終間氷期という今より温暖な時代に生息していました(現アフリカゾウより小型)。この化石により、当時この地が生息に適した気候であったことが分かりますし、海から陸化していたことも想像できるのです。(守)



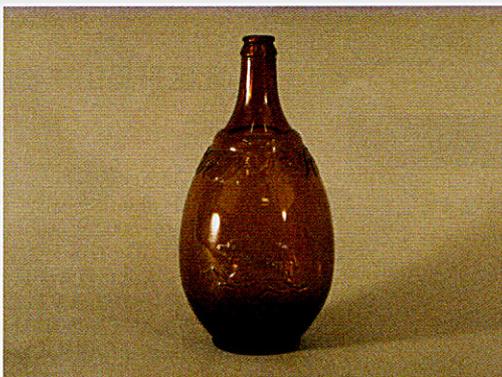
東京大学総合研究博物館蔵

博物館 インフォメーション

新着資料のご紹介

『昭和初期のビール瓶』

今回紹介する資料は平成19年に新たに寄贈を受けたものです。寄贈して下さったのは北区赤羽西の酒屋を営んでいた方です。お店は昭和3年に開業し、資料はその頃に扱っていたビール瓶だそうです。良く見ると肩のところ「麒麟ビール」の文字と胴の真ん中に例の麒麟のマークがあります。お話によると昭和の初期のものだということですが、今ではこんな形の大きな瓶は目にしませんよね。それもそのはず。現在のビール瓶の容量が定まったのは昭和19年の酒税法の適用によります。各社で異なっていたビール瓶の容量を統一する際に、当時大瓶として出回っていたものの中で最も容量が少ないものを大瓶の基準にしたそうです。こうして、資料のような特大サイズの大瓶は昭和19年を境に姿を消しました。復活してほしいと思うのは私だけでしょうか!?(直)



古い写真探しています

みなさんのお宅に古い写真はありますか?戦前から昭和50年代までの北区の町並みや、人々の暮らしぶりがうかがえるような写真がございましたらご一報を。

※写真は一時お預かりして複写させていただきます、お返しいたします

おすすめします!この1冊



【書名】『いまは昔むかしは今 瓜と龍蛇』
【編者】網野善彦・大西廣・佐竹昭広
【発行】福音館書店

日本の七夕の物語を知っていますか?『天稚彦』という物語では、不思議な瓜から天の川が流れ出すという、中国の話とは一風変わった独自の世界観が描かれています。日本人は古来から瓜に特別な思いを寄せてきました。この本は、「瓜」と「龍蛇」を手がかりとして、日本に暮らした人々の心の世界を旅する本です。日本人の文芸観の深さを感じずにはいられない1冊。思いも寄らぬ「瓜物語」をご堪能ください! 閲覧は3F閲覧コーナーにて!

を
うおー(わ) 凄いい!
たまるかまどこ
湯気のぼる

学芸員リレーエッセイ

博物館いろは歌留多

お正月気分もまだ十分抜け切らぬうちに今年もまた「来て、見て、さわって！昔の道具」が始まりました。この催しは、毎年1月から2月にかけて区内の小学3年生を対象に、クラスごとに「かまど体験」もしくは「せんたく体験」を民具資料の展示見学を交えて体験学習してもらおう事業です。かまど体験は屋外に特設した竈で実際に薪を燃やして湯を沸かし、その際に出来た炭を七輪に移し餅焼きをするという内容で、せんたく体験はやはり屋外に特設した井戸端で実際に水を汲み出し盤に水を張り、洗濯板と固形石鹸を使って日本手ぬぐいを洗い張板に干すというものです。1月16日(水)に初日をむかえ、かまど体験3クラスを一番初めに担当することになりました。手順は一応理解してはいるものの、天気は悪くならないか、予め設定した時間内で炊き付けできるか、お湯は沸かせるか、当日まで結構不安がありました。実際に事業が始まると、肝心の箇所の説明を端折ってしまったり、焚き付けが思うようにいかなかったりとさんざんでしたが、釜のふたを開け白い湯気が一気に立ち上り生徒たちが歓声を上げたことでようやく一安心した次第です。次回をもっとスムーズに実施できるよう頑張ります！(守)

平成20年度上半期の催し物

春4月～6月

- 開館10周年記念企画展「名所の誕生～飛鳥山で読み解く名所プロデュース」(3/20～5/6)
- 3つの博物館合同 企画展ミュージアム・トーク(4/19・26)
- 3つの博物館合同企画「学芸員と歩く王子・飛鳥山の歴史と産業」(4/24)
- 講義&見学「名所の変遷をたどる」(4/23・29)
- 開館10周年記念企画展 特別講演会(5/2)
- 新緑の日光御成道をたどり歴史を訪ねる(5月)
- 2008年映像企画「都電の軌跡」(6月)
- スポット展示「ASUKAYAMAセレクション5☆2008」(5/17～6/22)

夏7月～9月

- イベント「夏休みわくわくミュージアム☆2008」(7/21～8/31)
 - ・夏休み土器づくり教室入門編
 - ・都電車庫見学会
 - ・夏休み勾玉づくり教室
 - ・きつねのお面作りに挑戦!
 - ・江戸のおもちゃ【ずぼんぼ】を作ろう!
 - ・体験 ゲルマニウム・ラジオを作ろう
 - ・博物館探検ツアー
 - 特別展覧会「人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」(9月)
- ※催し物名称は仮称です。
詳しくは館発行の「催し物案内」、北区HPをごらんください。

利用のご案内

【開館時間】

午前10時～午後5時
(有料の展示室への入場は午後4時30分まで)

【休館日】

- 毎週月曜日(国民の休日・振替休日の場合は開館)
- 国民の休日および振替休日の翌日(土曜・日曜日の場合は開館)
- 年末年始(12月28日～1月4日)このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
小・中・高	100円	80円	240円



- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧になれます。

お知らせ

□ 燻蒸消毒による臨時休館

収蔵資料を害虫やカビから守るため、燻蒸消毒を行います。そのため7月1日(火)から同月4日(金)までを臨時休館とする予定ですので、何卒ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

編集後記

平成20年3月27日を迎え、当館は満10歳となりました。光陰矢のごとしといいますが、本当にあっという間に時が流れて行きました。もう10歳?いいえまだ10歳。これから成長するためにみなさまのお力添いをいただきたく思います。これからも飛鳥山博物館をよろしく願います。(直)

北区飛鳥山博物館だより

— ばいす 20 —

- 発行 平成20年3月20日
 編集 北区飛鳥山博物館
 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
 TEL. 03-3916-1133
 発行 東京都北区教育委員会
 〒114-0002 東京都北区王子本町1-2-1
 TEL. 03-3908-1111 (代)
 印刷 羽陽美術印刷株式会社